

原爆と被差別部落

— 長崎・被爆八〇周年を迎えて —

被爆八〇周年を前に、昨年12月日本被団協はノーベル平和賞を受賞した。代表委員の田中熙巳さんはスピーチで、被爆者は被爆後の10年余りを「孤独と病苦と生活苦、偏見と差別」に耐え続けたことを訴えた。また、次の世代に向けて、証言や被爆者団体の運動の記録をアーカイブとして保存する重要性を訴えた。

本誌は、爆心地から1.2kmにあった長崎の被差別部落が原爆によって消滅したことを、その被害・証言等から描いたものである。

目次

- ・プロローグ
- ・原爆と被差別部落
- ・被爆体験と戦後の生活
- ・語らんのじゃない、語りたくないんです
- ・妹の骨はやはりあった
- ・子どもたちの看病と死 他
- 資料
・浦上町の被爆犠牲者・被爆証言に関する新聞報道
- ・平和への思いを込めた、万羽鶴

NPO法人 長崎人権研究所

原爆と被差別部落

— 長崎・被爆八〇周年を迎えて —

長崎人権ブックレット
「こたわって部落問題」その⑦



(A5 版66 頁)

頒価 800円 NPO 法人 長崎人権研究所

〒850-0048 長崎市上銭座町2番7号 TEL 095(847)8690 . FAX 095(847)8696

E-Mail nhrri1979@iaa.itkeeper.ne.jp <http://naga-jinken.c.ooco.jp>

キ—リ—ト—リ—

注文用紙

フリガナ			
名前			
住所 (送付先)	〒		
注文冊数	冊	連絡先	TEL